

(電)第10期男女参画委員会 第7回三役会会議議事録

- ◆開催日時:2012年7月24日(火)10:00~18:30
- ◆開催場所:静岡労働会館 AM(電)静岡地協事務所 PM 1F会議室
- ◆出席者 :内山、渡井、竹下、斎藤顧問、平岩、倉田
小林(AM)、望月・寺岡次期顧問(14:00~)、
<司会進行>渡井 <書記>倉田

◆内 容

1. 第3回委員会(6/1)の感想と反省・課題

①感想

- ・委員会後の感想がグループ発表のことに偏っていた⇒それだけ印象が深かったといえる(?)
- ・仲間で力をあわせれば、自分だけでは思いつかないアイデアが出て素晴らしい成果が発揮できることを実感出来たのではないか
- ・発表も素晴らしかったが、他グループからの講評も素晴らしかった
- ・最後は学ぶだけではなく、交互発信・相互理解になり、締めくくりとしては良かったと思う

②反省・課題

- ・全体的な時間配分など次回以降再検討⇒テーマを絞りより深く掘り下げるなど
- ・パネルディスカッションについて
 - ・もっと早い段階で企画を降ろして議論すべきだった
 - ・イメージが始めから思い浮かばなかった・出来にくかった
 - ・言い放しになりやすい
 - ⇒次回は落としどころを設定し、パネラーの意見にも脚色をいれて一定の方向へ導く必要あり
 - ・トライアルとしては合格だが次回はパネルディスカッションの形式に拘らず企画する
- ・グループ代表者形式でのディスカッションも次回検討
- ・今後、委員が委員会で学んだことをどう単組で活用していくのか

2. 地協間交流会の感想と反省(滋賀/東奥羽)

- ・事前データを読み込み、相手を理解した質問を用意する
- ・両地協は委員が企画している⇒利点は単組活動に活かせるが、当人の負担が増える⇒要検討
- ・休日の委員会設定⇒集まりやすさ、家族を巻き込む利点あり⇒単組活動との切り分けが必要
- ・地協ごとに目的が違う。その事に気がついたことが大きな収穫

3. 9－10期総括(2010年9月～2012年8月)

- ・9期と10期で内容が違い、レベルあわせが出来なかった。
⇒委員招集時に2年続けて活動してもらうことを前提にお願いする
- ・委員会経験者は単組に降ろすことは必須。委員を降りてから単組で役を与えることも検討

※<ヤマハ事例>

委員会の成果報告を、グループ発表形式で支部長に行なった。

- ⇒「男女参画委員会の活動が初めて理解できた。成果のある委員会と認識し、今後は人材育成の観点からも派遣委員を選定していく」という感想をいただいた。

4. 次期活動へ

全体的には9～10期を踏襲

①三役体制

- ・4人制(9期)だと日程調整は楽だが、一人の負担が重い。
- ・6人制(10期)はアイデアが豊富になる。人の能力より組織力で活動
⇒東・中・西から各2名の6人体制がベター
- ・委員長と事務局長は別性で担当する
- ・顧問は斎藤事務局長から寺岡次期事務局長に交代
- ・三役は各執行部から出てきたほうが単組に降ろしやすいのでは？
⇒単組に降ろす仕組みが出来れば、執行部に拘らない(人による)
- ・委員の企画参加⇒負担が掛かるが、一部(アイスブレーキングなど)なら可能かも。今後検討

②委員会回数

- ・回数を増やせば、一つのテーマについてもっと時間をかけられる。
- ・委員が皆勤していなければ、回数を増やすことは可能
⇒2年で6回が妥当

③その他

- ・単組の三役クラスに委員会を見学してもらう
- ・委員会の議事録作成(タイム実績、反省点、修正箇所など)
- ・三役会のポツ案など公開する議事録とは別に記録
- ・大テーマをWLBからダイバーシティへ
⇒決定できず再検討

④次期三役引継ぎ

- ・委員会の変遷年表を作成(平岩・内山)
- ・活動説明資料&報告(小林・竹下)
- ・日程はメールベースにて調整⇒1日で計画

5. 11～12期 活動計画

①チームビルディング(三役も一緒に)/導入教育/ダイバーシティ教育

②国会議事堂見学(バス車中WLBのDVD鑑賞)

③キャリアデザイン研修

⇒三役は事前研修会が必要

④労使会議に混ざり講義傍聴(WLB・ダイバーシティ教育(ダイバーシティのDVD準備))

⑤他地協交流/

※そこまでの進捗等により変更あり

⑥プレゼン/総括

以上